日本学術会議だより　No.9

第13期最後の総会終わる

—「国際間の科学技術協力と研究の自由について(声明)」を採択—

昭和63年5月　日本学術会議広報委員会

日本学術会議は，4月20日から4月22日まで第104回総会を開催し，「国際間の科学技術協力と研究の自由について（声明)」を決議するとともに，4件の勧告・要望・見解を採択しました。

総　会　報　告

総会第1日目（4月20日）の午前中には，会長からの経過報告，各部・諸委員会報告に続き，勧告・要望等6つの提案がなされ，同日午後の各部会での審議を経た上で，第2日目（21日）の午前中にこれらの6件が可決された。その後さらに1件の追加提案が行われ，同日午後これが可決された。第3日目（22日）午前は特別委員会が，午後には常置委員会が開催された。

なお，総会前日の19日午前には連合部会が開催されて前記の6案件の予備的な説明・質疑が行われ，またその午後には各部会が開催された。

第1日目午前。6件の提案につきそれぞれ提案説明が行われた後，質疑応答が行われた。午後，各部会を開催。

第2日目午前。まず，前日提案された「日本学術会議会則の一部を改正する規則の制定について」，「日本学術会議の運営の細則に関する内規の一部改正について」が賛成多数で採択された。第1常置委員会で審議を重ねてきたこれら会則・内規の改正は，(1)副会長世話担当研連のうち6研連を関係部へ移行させ，残りの12研連を副会長枠として存続させること等に伴う措置を決めたものと，(2)現存する6国際協力事業専門委員会のうち，第14期にも引き続き存続させる3専門委員会に関する措置を決めたものとである。このことに関連して，研連活動の活性化に関して活発な発言が行われた。

次に第4部提案の「太陽地球系エネルギー国際協同研究計画(STEP)の実施について」(勧告)，同じく第4部提案の「国立地図学博物館（仮称）の設立について」(勧告)，さらに第5常置委員会提案の「大学等における学術諸分野の研究情報活動の推進について」(要望)が，いずれも賛成多数で採択された。続いて，第6常置委員会提案の「我が国の国際学術交流の在り方についての日本学術会議の見解」が，これも賛成多数で採択された。

その後会長より「国際間の科学技術協力と研究の自由について（声明）—日米科学技術協力協定の改定に当たって—」が追加提案された。これは，日米科学技術協力協定の改定が行われようとしているに当たり，目下伝えられているその内容について憂慮すべき点があるというので，19日午後及び20日午後の各部会での討議を経て，そのおおよその見解の一致を踏まえて，会長が総会に提案したものである。この提案を受けて，この声明を出すことは時機を得たことであるとしながらも，文章表現に関しては質問・意見が多く出された。

第2日目午後。午前の審議に引き続き，一部の文章表現に関する修正案が数名の会員から提示され，採決の結果原案を一部修正したものが賛成多数で採択された。なお，総会で採択された前記勧告・要望は22日午後内閣総理大臣に提出され関係諸機関等に送付された。（これらの勧告・要望・見解・声明の概要は別項所載のとおりであり，詳細は日本学術会議月報5月号を参照されたい。）

国際間の科学技術協力と研究の自由について(声明)
—日米科学技術協力協定の改定に当たって—

最近，日米両国政府間で大筋が合意された「日米科学技術協力協定」の改定について，目下伝えられる内容に関しては憂慮すべき点が少なくない。

日本学術会議は，さきに「科学者憲章」(声明)，「科学の国際協力についての日本学術会議の見解」を採択し，科学者の責務と学術の国際交流に当たっての基本的な原則を明らかにした（この部分は本文を簡略化した)。

二国間の学術交流は，相手国の固有の事情があるにしても，上述の日本学術会議が宣明した全世界的な学術交流の原則と相容れない内容を含むものであってはならない。全世界的立場と個別の二国間協定の立場とには差異がありうるにせよ，いかなる場合にも自由な研究交流，成果の公開といった基本原則はかたく守られなければならないと考える。

今回の「日米科学技術協力協定」の改定は「安全保障」，「知的所有権」の問題を包含すると伝えられているが，このことによって科学者の研究・発表の自由，科学者の身分保障などが実質的に制約される恐れがある。したがって，協定の具体的内容の決定に当たっては，慎重な配慮が必要である。

われわれは，「日米科学技術協力協定」の改定に当たって，本会議が明らかにしてきた上述の諸原則の精神を最大限に尊重することを強く要望するものである。

この種の科学技術協力に関する国際的取極めについては，事前に広く科学者の意見を聴取すべきものであると考える。

太陽地球系エネルギー国際協同研究計画（STEP）の実施について（勧告）

暗黒の宇宙空間に浮かぶ青いルビーのように光る地球が，我々にとってかけがえのない惑星であることが，理解されるようになったのは，20世紀の科学研究の最大の成果の1つである。宇宙空間に浮かぶ我が惑星，地球には，太陽からの紫外線や太陽風プラズマが絶えず襲っていて，絶妙なエネルギーバランスを保ちつつ，地球の電磁圏や中間圏，

成層圏を作っている。しかしこのシステムには，未だ多くの謎が残されていて，この謎の理解は宇宙空間の基礎物理の理解とともに永続的な地球環境変化の理解の基礎ともなっている。したがって国際太陽地球系物理学・科学委員会(SCOSTEP)は，国際科学連合会議(ICSU)の承認を得て，太陽地球系エネルギー国際協同研究(Solar Terrestrial Energy Program: STEP)計画を立て，1990—1995年の6か年間にわたりその実施を行うよう，各国に要請している。

本研究計画では，太陽から，地球成層圏にわたる，全領域について，それを一つのシステムととらえ，そこに展開する電磁現象，プラズマ現象，及び化学現象について，現象の変動のみならず，エネルギー伝播の変化も合わせ，定量的に究明することを目指している。我が国でも本国際協同研究計画を実施すべく，今回，第104回日本学術会議総会において，政府に対する勧告が出された。

「国立地図学博物館」（仮称）の設立について（勧告）

国際社会における日本の役割と責任とが高まるにつれて，それぞれの国情，民族性，地域的生活様式に即した適切な対応を行う必要がある。そのためには，一国単位のみならず，主要な行政区域が大都市圏といった主要地域ごとに，新しい詳細な地理情報を組織的，継続的かつ迅速的確に収集し，整理加工して，一般の需要に応える体制作りは，焦眉の急を要する国家的課題である。ここで言うところの地理情報とは，様々な地域に即して，その風土と住民，民族と文化，人口と社会，生活と環境，資源と産業，集落と交通，経済と政治などに関して，地図，空中写真，地上景観写真，衛星画像等（地図・画像情報）によって表現される地表の空間的情報を意味する。とりわけ，「地表の地理的事象を数学的，選択的，かつ記号的に表現した地図」は，コンピュータの支援によって，ますますその情報価値を高めている。

ここに勧告する「国立地図学博物館」（仮称）は，主として諸外国の地図，画像情報の収集，整理，保存を行い，関連する地域情報を加えて，地理情報のデータ・ベース化の手法や図的解析法，表現法，利用の高度化，地図発達史等に関する研究を行い，動的，立体的な展示方法を駆使して，広く国民の国際知識の涵養，地域研究，学術文化，政治行政，経済活動等に寄与し，さらに，国内及び国際的地域情報のセンターとしても基幹的な役割を演じ，国内外の関連機関と密接に提携して，地理情報の相互補完的及び相乗的価値を高めることを目指すものである。

大学等における学術諸分野の研究情報活動の推進について（要望）

高度情報化社会に即応した新しい手段により，学術研究の基礎的情報・資料を整備すること，情報・資料や研究成果を全国的・国際的に流通させることが，学術のすべての分野を通じて強く要望されている。これらの推進のために，近年，文献資料センター，データ資料センターの整備，「学術情報センター」の設立，データベース作成の支援などが行われ，その環境はかなり整備されてきた。

これらの環境を基盤として，それを強力に補完するものこそ，個々の専門分野での研究情報活動である。このため，国公私立大学等で，国際協力を念頭に置きつつ，それぞれ特色を持つ領域を単位として，情報・資料を整備し，その分野での研究成果を提供する組織の設置と方法の推進とともに，「学術情報センター」のネット・ワークなどを通じて，全国的・国際的に流通させる体制の強化が急務であると考える。このために，下記のような体制の確立を要望する。

(1)専門分野別に研究情報センターを設置すること。(2)大学等の既存の諸機関（文献資料センター等）における研究情報活動を推進すること。(3)個別的なデータベース・知識ベースの作成と新規のデータ処理方法の開発を助成すること。(4)「学術情報センター」の拡充を図ること。(5)大学等とそれ以外の機関（官公庁，学・協会を含む）との情報の流通を円滑化すること。

我が国の国際学術交流の在り方についての日本学術会議の見解

学術の問題は国際的視点を外して考えることはできない。日本学術会議は，昭和36年10月27日第34回総会において「科学の国際協力についての日本学術会議の見解」を採択し，科学の国際協力は，(1)平和への貢献を目的とすべきこと，(2)全世界的であるべきこと，(3)自主性を重んずべきこと，(4)科学者の間で対等に行われるべきこと，(5)成果は公開されるべきことの5原則を明らかにした。この見解は，国際学術交流における一般的原則を示すもので，今日においても尊重されるべきものである。

この見解表明から四半世紀を経て，国際学術交流を取り巻く環境の変化は急速に進んでいる。その変化の速度は今後更に顕著になると思われる。しかし，このような著しい変化の中で，国際学術交流に対する我が国の人的，制度的，財政的対応は必ずしも満足すべき状態にはない。今回の見解は，こうした状況を踏まえ，我が国の国際学術交流は今後一層積極的かつ能動的な姿勢へ転換させることの重要性を指摘し，次のとおり，人の問題，国際交流の進め方の問題，組織の問題の三つの面で，新しい姿勢に見合った改革を進めて行くことの必要性を表明している。

(1) 人的交流の促進と大学・研究機関の国際的開放
(2) 学術研究活動の世界的展開
　① 国際的学術機関の活動への積極的参加
　② 国際的研究プロジェクトの策定と遂行
　③ 二国間・地域間学術交流
(3) 国際学術ネットワークの確立

全国学術研究団体総覧（1988）

学術研究団体調査の結果をもとに，我が国の学術研究団体1236団体が分野別に，また大学関係学会等一覧が収録されています。[日本学術会議事務局監修・㈶日本学術協力財団編集・6500円・郵送料350円]

※本総覧は，全国の政府刊行物サービスセンターで販売。

日本の学術研究動向（昭和63年4月）

人文・社会科学及び自然科学を網羅した科学者から成る日本学術会議において，全学問分野にわたり，学術研究の動向の現状分析とその展望を行い，その成果を取りまとめたもの。[日本学術会議・㈶日本学術協力財団発行・5000円・郵送料300円]

※本資料は，㈶日本学術協力財団で取り扱っています。

御意見・お問い合わせ等がありましたら下記までお寄せください。
〒106　港区六本木7—22—34
日本学術会議広報委員会　電話　03（403）6291

賛助会員

北海道栽培漁業振興公社　060 札幌市中央区北4条西6丁目　毎日札幌会館内
阿寒観光汽船株式会社　085-04 北海道阿寒郡阿寒町字阿寒湖畔
有限会社　シロク商会　260 千葉市春日1-12-9-103
海藻資源開発株式会社　160 東京都新宿区新宿1-29-8　財団法人公衆衛生ビル内
協和醗酵工業株式会社研究開発本部商品開発部センター
100 東京都千代田区大手町1-6-1　大手町ビル
全国海苔貝類漁業協同組合連合会　108 東京都港区高輪2-16-5
K.K. 白壽保健科学研究所・原　昭邦　173 東京都板橋区大山東町32-17
有限会社　浜野顕微鏡　113 東京都文京区本郷5-25-18
株式会社ヤクルト本社研究所　189 東京都国立市谷保1769
山本海苔研究所　143 東京都大田区大森東5-2-12
弘学出版株式会社　森田悦郎　214 川崎市多摩区南生田6-16-12
田崎真珠株式会社田崎海洋生物研究所　779-23 徳島県海部郡日和佐町外ノ牟井
神協産業株式会社　742-15 山口県熊毛郡田布施町波野962-1
理研食品株式会社　985 宮城県多賀城市宮内2丁目5番60号

海藻を総括的に論じた待望の書!!

海藻資源養殖学

徳田　廣　大野　正夫　小河　久朗　著
(東京大学農学部)　(高知大学農学部)　(東北大学農学部)

B5判　上製　口絵4頁
本文354頁　付・用語集
定価5,500円(送350円)

海藻の資源や養殖について初めて総括的に取揚げた待望の書。ノリを始めとする個々の海藻養殖の現状と将来展望から、藻場造成、利用法、海外での養殖、新しい海藻の養殖法、新品種形成の現状まで、実に幅広い観点から論じ尽した海藻入門の決定版。研究者・学生・養殖業者の熱い要望に応えて遂に刊行!!

主要目次

Ⅰ.地球生態系と海藻　Ⅱ.海藻の生育環境　Ⅲ.海藻の利用　Ⅳ.世界の海藻資源と生産量　Ⅴ.現在の海藻養殖　Ⅳ.藻場造成　Ⅶ.海外の海藻養殖の現状　Ⅷ.海藻養殖の将来と展望

〒171 東京都豊島区池袋2－14　池袋西口スカイビル
☎販売03-590-4441(直)　振替／東京4-2758・6-80496　㈱緑書房

最先端と素敵な出合

データベースでダイナミックプリンティングコミュニケーション

富士通 OASYS
NEC PC-9801
入力装置
ドッド文字

富士通 9450シリーズ　NEC PC-9801

写研
美しい
文字

生まれかわるデータベース
会員管理・名簿管理・調査票発送・集計・印刷・請求・販売促進・検索

Cコーポレイト Iアイデンティティで企業発展に貢献する

日本印刷出版株式会社

■本　社　〒553 大阪市福島区吉野1丁目2番7号／TEL 06-441-6594㈹
■電算室　〒553 大阪市福島区吉野1丁目3番18号

新　刊

自然の中の藻類の「生きている姿」を知るために

藻類の生態

秋山 優・有賀祐勝
坂本 充・横浜康継　共編

A5判　640頁
定価12800円(〒400円)

1　水界生態系における藻類の役割－有賀祐勝＊2　水界環境と藻類の生理－藤田善彦＊3　藻類の生活圏－秋山優＊4　海洋植物プランクトンの生産生態－有賀祐勝＊5　湖沼における植物プランクトンの生産と動態－坂本充＊6　自然界における藻類の窒素代謝－和田英太郎＊7　植物プランクトンの異常増殖－飯塚昭二＊8　海藻の分布と環境要因－横浜康継＊9　河川底生藻類の生態－小林弘＊10　汽水域の藻類の生態－大野正夫＊11　土壌藻類の生態－秋山優＊12　海氷中の藻類の生態－星合孝男＊13　藻類と水界動物の相互作用－成田哲也＊14　藻のパソジーン－山本鎔子＊15　藻類の細胞外代謝生産物とその生態的役割－大和田紘一＊16　藻類の生活史と生態－中原紘之＊17　藻類群集の構造と多様性－宝月欣二　各章末に掲載の多数の文献は読者にとって貴重な資料となろう。

シートでみる種の同定・分類

淡水藻類写真集

Photomicrographs of the Fresh-water Algae

山岸高旺・秋山優編集
B5判・各100シート・ルーズリーフ式
第1巻・第2巻　発売中　定価4000円
第3巻・第4巻　定価5000円　〒350
第5巻(10月刊)　以下継続

生物学史展望

井上清恒著　五千年にわたる生物学の流れを追い，各時代の特質を浮彫にする。分子の世界にまで進んだ生物学の立場を考えるために好適。**定価4800円**

回想のモーリッシュ

—ある自然科学者の人間像—

渋谷　章著　日本の植物学界に大きな足跡を残した自然科学者の生涯をたどる労作。　**定価1800円**

南の動物誌

—熱帯森林に生きる—

渡辺弘之著　熱帯森林を専攻する著者が，熱帯地域の動植物の生活を写真を中心に語る。**定価1300円**

世界の珍草奇木

—植物に見る生命の神秘—

川崎　勉著　自然界の重要な仲間植物群，強い生命力と環境への適応力を感激の筆で語る。**定価1300円**

近　刊

河川の珪藻　B5判

小林　弘著

日本淡水藻図鑑

廣瀬弘幸・山岸高旺編　日本ではじめて創られた本格的な図鑑。淡水藻類の研究者や水に関係する方々にとっては貴重な文献である。**定価36,000円**

藻類学総説

廣瀬弘幸著　藻類の分類と形態を重点に置いて，克明な図により丁寧に解説する。　**定価10000円**

植物組織学

猪野俊平著　植物組織学の定義・内容・発達史から研究方法を幅広く詳述した唯一の書。**定価15000円**

高地植物学

柴田　治著　植物の環境適応について長年研究した著者の成果をまとめた。　**定価5800円**

山歩きアラカルト

—自然の探索ノート—

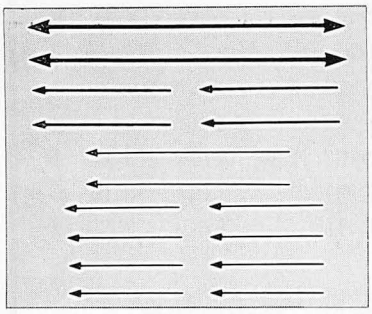
柴田　治著　山野をたのしく歩くための心得帳。とくに山の医学は知っていて便利。　**定価1300円**

内田老鶴圃
東京・文京区大塚3-34-3／Tel 03-945-6781

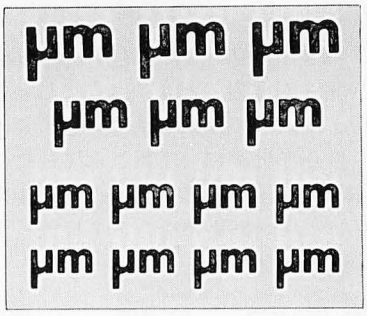
新製品ご案内!!

レタリングシート（ブラック アンド ホワイト）

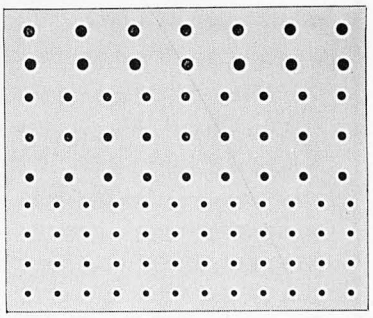
EMI NO.82014



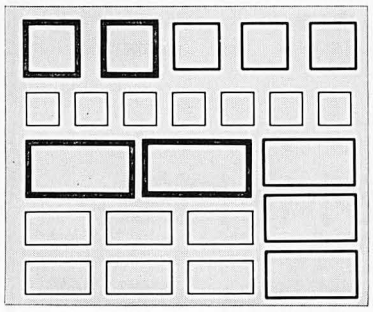
EMI NO.82016



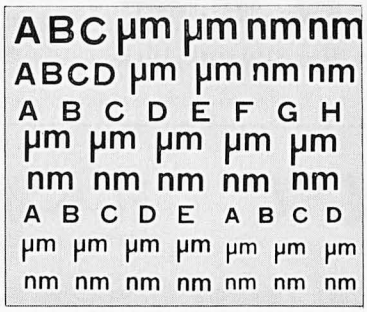
EMI NO.86626



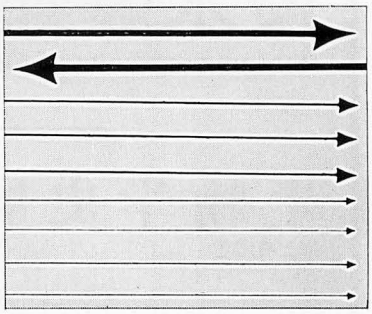
EMI NO.86627



EMI NO.86902

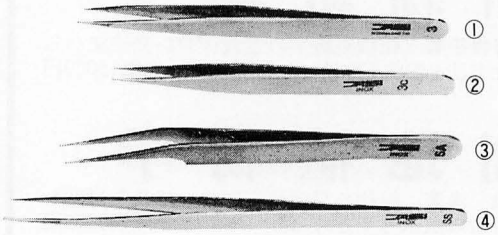


EMI NO.86916



※レタリングシートの総合カタログが出来ました。下記の住所へカタログをご請求下さい。

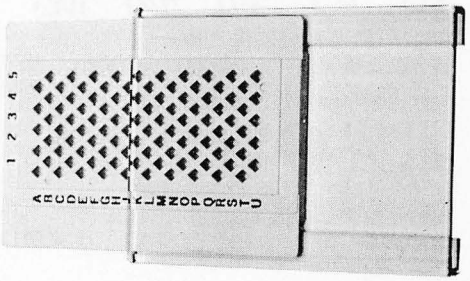
西独製 精密ピンセット



①時計ピンセット　③5型変形ピンセット
②3Cピンセット　④SS型ピンセット

各1本：￥2,200

EMグリッドボックス



1個：￥1,800　10個：￥15,000

EM資材直販センター
〒274 千葉県船橋市三山5-6-1 TEL.0474(75)5783
東京営業所：TEL.03(988)9906

学 会 出 版 物

下記の出版物をご希望の方に頒布致しますので，学会事務局までお申し込み下さい。（価格は送料を含む）

1. 「藻類」バックナンバー　価格，会員各号1,750円，非会員各号3,000円，30巻4号（創立30周年記念増大号，1—30巻索引付）のみ会員5,000円，非会員7,000円，欠号：1—2号，4巻1．3号，5巻1—2号，6—9巻全号。

2. 「藻類」索引　1—10巻，価格，会員1,500円，非会員2,000円，11—20巻，会員2,000円，非会員3,000円，創立30周年記念「藻類」索引，1—30巻，会員3,000円，非会員4,000円。

3. 山田幸男先生追悼号　藻類25巻増補．1977．A5版，xxviii+418頁．山田先生の遺影・経歴・業績一覧・追悼文及び内外の藻類学者より寄稿された論文50編（英文26，和文24）を掲載．価格7,000円。

4. 日米科学セミナー記録　Contributions to the systematics of the benthic marine algae of the North Pacific. I. A. Abbott・黒木宗尚共編。1972．B5版，xiv+280頁，6図版．昭和46年8月に札幌で開催された北太平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録で，20編の研究報告（英文）を掲載。価格4,000円。

5. 北海道周辺のコンブ類と最近の増養殖学的研究　1977．B5版，65頁。昭和49年9月に札幌で行なわれた日本藻類学会主催「コンブに関する講演会」の記録。4論文と討論の要旨。価格1,000円。

Publications of the Society

Inquiries concerning copies of the following publications should be sent to the Japanese Society of Phycology, c/o **Division of Tropical Agriculture, Faculty of Agriculture, Kyoto University, Kitashirakawa-oiwakecho, Sakyo-ku, Kyoto, 606 Japan.**

1. Back numbers of the Japanese Journal of Phycology (Vols. 1–28, Bulletin of Japanese Society of Phycology). Price, 2,000 Yen per issue for member, or 3,500 Yen per issue for non member, price of Vol. 30, No. 4 (30th Anniversary Issue), with cumulative index (Vols. 1–30), 6,000 Yen for member, or 7,500 Yen for non member. Lack: Vol. 1, Nos. 1–2; Vol. 4, Nos. 1, 3; Vol. 5, Nos. 1–2; Vol. 6–Vol. 9, Nos. 1–3 (incl. postage, surface mail).

2. Index of the Bulletin of Japanese Society of Phycology. Vol. 1 (1953)–Vol. 10 (1962) Price 2,000 Yen for member, 2,500 Yen for non member, Vol. 11 (1963)–Vol. 20 (1972). Price 3,000 Yen for member, 4,000 Yen for non member. Vol. 1 (1953)-Vol. 30 (1982). Price 4,000 Yen for member, 5,000 Yen for non member (incl. postage, surface mail).

3. A Memorial Issue Honouring the late Professor Yukio Yamada (Supplement to Volume 25, the Bulletin of Japanese Society of Phycology). 1977. xxviii+418 pages. This issue includes 50 articles (26 in English, 24 in Japanese with English summary) on phycology, with photographies and list of publications of the late Professor Yukio Yamada. ¥ 8,500 (incl. postaeg, surface mail).

4. Contributions to the Systematics of the Benthic Marine Algae of the North Pacific. Edited by I.A Abbott and M. Kurogi, 1972. xiv+280 pages, 6 plates. Twenty papers followed by discussions are included, which were presented in the U.S.-Japan Seminar on the North Pacific benthic marine algae, held in Sapporo, Japan, August 13–16, 1971. ¥ 5,000 (incl. postage, surface mail).

5. Recent Studies on the Cultivation of *Laminaria* in Hokkaido (in Japanese). 1977. 65 pages. Four papers followed by discussions are included, which were presented in a symposium on *Laminaria*, sponsored by the Society, held in Sapporo, September 1974. ¥ 1,200 (incl. postage, surface mail).

昭和63年6月10日　印刷
昭和63年6月20日　発行

©1988 Japanese Society of Phycology

禁　転　載
不　許　複　製

Printed by Nippon Insatsu Shuppan Co., Ltd.

編集兼発行者　坪　由　宏
〒657　神戸市灘区鶯甲 1-2-1
神戸大学教養部生物学教室内
Tel. 078-881-1212

印　刷　所　日本印刷出版株式会社
〒553　大阪市福島区吉野 1-2-7

発　行　所　日　本　藻　類　学　会
〒606　京都市左京区北白川追分町
京都大学農学部熱帯農学専攻内
Tel. 075-751-2111
（内線　6355，6357）

本誌の出版費の一部は文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」による。

Publication of The Japanese Journal of Phycology has been supported in part by a Grant-in-Aid for Publication of Scientific Research Result from the Ministry of Education, Science and Culture, Japan.

第36巻　第2号　昭和63年 6 月20日

藻　類

目　　次

堀　輝三：オオハネモ（緑藻綱）の配偶子および配偶子接合の微細構造……（英文）113

Celia M. Smith and James N. Norris：カリブ海産 *Bostrychia montagnei* HARVEY と *B. binderi* HARVEY（フジマツモ科，イギス目）における精子嚢の存在と構造……（英文）127

工藤利彦・増田道夫：紅藻 *Polysiphonia senticulosa* HARVEY と *P. pungens* HOLLENBERG（フジマツモ科，イギス目）について……（英文）138

伊藤裕之：琵琶湖南湖の鱗片を有する黄金藻……（英文）143

丸山　晃：仁科三湖における *Cyclotella comta* 集団の地域的な差異……（英文）154

前川行幸・喜田和四郎・横浜康継・有賀祐勝：褐藻アラメおよびカジメ幼体の光要因からみた生育限界の比較……（英文）166

◆・◆

ノート

能登谷正浩：ツルアラメの組織培養……（英文）175

J. Carl Stapleton：ニュージーランドのウェリントン港におけるワカメ *Undaria pinnatifida* (HARVEY) SURINGAR の出現……（英文）178

◆・◆

学会録事……180

学会会則……186

投稿案内……188

日　本　藻　類　学　会